

平成23年度 磐田市立竜洋中学校の基本方針

【学校経営方針】

- 不易と流行を正しく見据え、継続すべきことは確実に引き継ぎ、新しく時代が要請することには果敢に挑戦する学校を目指していく。
- 文武両道の精神を基盤に、新学習指導要領に継承された「生きる力」をはぐくみ、知・徳・体の調和のとれた“未来をひらく竜洋の子”の育成を図る。
- 地域に学校を開き、保護者・地域との協同体制を確立し、信頼される学校づくりに努める。

1 学校教育目標 「いい表情の生徒」

保護者・教師ともに、教育活動のあらゆる場面で、生徒が爽やかに「いい表情」で学校生活を送ることができるようにと願っている。日々、「いい表情」で過ごすことが、充実した学校を送ることとなり、やがては生徒の夢や願いを叶えることにつながり、生徒の健やかな成長が図られると考える。「いい表情」とは、学校生活の中で「真剣な目つきで取り組んでいる」「まじめに必死で頑張っている」「うまくいかず、悔しい思いをしたが次を目指している」「目標を達成して、仲間と歓喜している」等、生徒の真剣さ、誠実さ、前向きな姿勢が表れたものである。授業はもちろんのこと、行事や部活動等、全ての学校生活を通して、生徒の「いい表情」が随所に見られるよう、教育活動を展開し、さらに創造していかなければならない。また、生徒一人一人の「いい表情」を見過ごすことのないように、常に生徒に寄り添い、支援していく生徒指導を心がけていく。

学校教育には、生徒に確かな学びを保証すること、社会性を身に付けさせることが求められている。確かな学びを保証していくために「分かる授業」の研究推進に励み、自分の思いや考えをよりよく伝える力や共に高め合い共生する態度を育成していく。また、学校生活における多くの人たちとのかかわりの中で社会性やコミュニケーション能力を高め、正しく優しい言葉遣いや竜中生としてのマナー、思いやりや協力性、規範意識、ボランティア精神・郷土や自然を愛する心等、一人の人間として大切な資質の向上を図っていきたい。

生徒の表情を見れば、健康状態、学習の成就感、生活の満足感など心の状態が読み取れる。いつのときでも「明るい挨拶、爽やかな笑顔、清々しい態度」が満ちあふれている…このような心豊かな生徒の集う竜洋中学校でありたい。

< 重点目標 >

- **自ら学び、共に高め合う生徒の育成** (知)
新学習指導要領に継承された「生きる力」をはぐくむため、「魅力ある授業」や「分かる授業」の実践に努める。そして、必修教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動を有機的に結びつけ、自ら課題を見つけ、主体的に判断し、よりよく問題を解決する力、及び自律の心や思いやり、協調性を身につけた生徒の育成を目指す。
- **正しく判断し、素直に実践する生徒の育成** (徳)
いじめや暴力行為等が無く、楽しく充実した学校生活が送れることを基本に置きつつ、善悪の判断、公德心、奉仕の精神をもって行動できる生徒が集う学校を目指す。
- **目標をもち、粘り強くやり抜く生徒の育成** (体)
現在の生徒を取り巻く環境は、物が豊かになった反面、心の豊かさにおいては、必ずしもよい方向にあるとは言えない。望ましい生活習慣が身につけていなかったり、心身の健康面に課題があり、支援を必要とする生徒もいる。このような状況において、高い「こころざし」と逞しい精神力をもつ生徒の育成を目指す。
- **よりよい食生活を通して生活改善をしていく生徒の育成** (食)
「自分のからだは、自分で食べたものでできる」と言われ、食生活が健康はもちろん頭脳の働きや行動にも影響を与えている。生涯を支えるたくましい身体づくりのために、よい食生活の在り方に関心を持ち、生活を改善していく生徒の育成を目指す。

2 学校経営目標

「地域に根ざした文武両道の竜洋中学校」

生徒が楽しく充実した学校生活を送ることができる基盤は、お互いに信頼し合うことのできる学年・学級集団にある。そのかかわりの中から、文化・運動両面、学習も部活動もがんだり、心身共にたくましく「いい表情の生徒」が育つ。生徒同士が切磋琢磨し、鍛えられて成長していく姿を保護者・地域は期待している。学校公開やたより等様々な情報発信活動、地域行事への参加を行うことで、より開かれた学校づくりを推進し、地域からの期待や信頼に応えられるよう努力していく。

※ 数値目標は、平成22年度学校評価結果から設定した。

○ 視点・・・魅力ある授業で、確かな学力の育成

確かな学力の育成には、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させることと、これらを活用して課題解決にあたるための思考力・判断力・表現力等を身に付けさせることの双方のバランスが重要である。しかし、現実的には基礎的・基本的な知識・技能でさえ、全員に習得させることは、かなり難しい。授業の中で生徒一人一人を大切にすることも、生徒にとって「分かる授業」を実践し、学習内容の理解状況を検証していく。

確かな学力」育成のため、「基礎・基本の定着」と「自ら学び自ら考える」授業を目指し、「分かる授業」を実践します。生徒による学校評価「授業の内容が分かる」について85%以上を目標とします。

○ 視点・・・高め合う集団で、勢いのある学校

“勢い”とは生徒や教師が意欲を持って主体的に生き生きと活動する姿、そして互いが信頼の絆で結ばれ、集団としての団結力を発揮し、その活力が大きくなるとなると学校行事や生徒会活動・部活動を活性化させていくことである。集団での活動を通して個を育て、一人一人の自信につなげていきたい。

生徒の学年・学級への所属感や互いの信頼感が強い団結力を産み、学校行事や生徒会活動に発揮され、その生き生きとした取組が勢いのある学校を創り出すこととなります。学年末には「学年・学級目標を達成することができた」と感じる生徒90%以上を目標とします。

○ 視点・・・一人一人が経営参画意識を持つ、頼もしい教職員

生徒が健全に成長していくために不可欠なことは、安心して生活できる基盤が確立されていることである。しかし、思春期を迎え、悩みや不安を抱えている生徒は多い。学校において、生徒の悩みや不安を和らげる役割を担うことは、教職員の責務である。常に生徒に寄り添い、生徒を見守り、必要な支援を行っていくことによって、安全で安心して生活できる学校づくりをしていく。

教職員は各自の持ち味を生かしながら、常に高い使命感と倫理感、責任感をもって職務を遂行していきます。そして、いじめや生徒の悩み等の早期発見とその解決に向けて迅速に対応し、生徒が安全で安心して生活できる学校づくりを目指します。生徒による学校評価「相談・悩みに適切に応じてくれる人がいる」について90%以上を目標とします。

○ 「2010プラン」に関する目標

項 目	目標数値 (%)	H21	H22
1 「授業がわかる」と答える生徒の割合	85	84.4	86.7
2 「信頼できる先生がいる」と答える生徒の割合	90	86.1	79.5
3 週5日以上、家庭学習に取り組む生徒の割合	75	64.7	74.7
4 「研修を役立てた」と答える教員の割合	100	100	89.7
5 週末等、ボランティアなど社会貢献活動をしている生徒の割合	65	39.9	55.9